

2020（令和2）年度

(R2/4/1-R3/3/31)

事業計画・活動予算書等

(案)

目次

1 事業計画

(1) 事業計画

- ①全 体 2p
- ②山口市市民活動支援センター「さぼらんて」 3p
- ③ほっとさろん中市「まちのえき」 9p
- ④こども明日花プロジェクト 11p

(2) 役職員体制図 13p

2 活動予算

- (1) 活動予算書 14p
- (2) 事業別予算内訳 15p

■ 法人全体事業計画 ■

特定非営利活動法人山口せわやきネットワークは令和2年6月で17期を終え18年目となる。

新年度も、市民のまちづくり意識の向上、参加のきっかけづくり、活動展開の支援を行い、市民の自由意志と責任で、誰もがお互いの幸せを考え、安心して暮らせる新しい社会システムの構築に向けて活動展開する。

こども明日花事業の予算では、昨年に引き続き事業費の約1/4は寄付で補う予定。当法人のホームページも開設し、賛助会員を募集するなど昨年度以上に計画的・積極的に寄付集めに挑戦する。

また、新型コロナウイルス拡散防止に向けて、センターが閉館になる場合も委託事業の成果をどのように出していくか各現場で工夫し、今後に備える。

1 会議

(1) 総会

年1回開催(5月)

(2) 理事会

年3回開催(4月、10月、2月)

2 事業

(1) 山口市民活動支援センター「さぼらんて」に関する事業<定款事業①②③>

○2020年度山口市民活動支援センター運営事業

◇山口市(協働推進課)委託事業

(2) ほっとさろん中市「まちのえき」に関する事業<定款事業①>

○2020年度高齢者等交流施設運営事業

◇山口市(高齢福祉課)委託事業

(3) こども明日花プロジェクトに関する事業<定款事業②③>

○「こども明日花プロジェクト」(学習支援・生活支援・居場所づくり)

◇寄附：ファンドレイジングにより、社会問題解決に取り組む事業
企業説明会等での寄附集め

◇委託：山口市子どもの居場所・学習支援事業

◇委託：山口県こども食堂サポート事業

◇助成：子どもの地域包括支援仕組みづくり<社会福祉機構助成>

◇助成：学校朝ごはん・シンポジウム開催<キューピーみらいたまご財団>

◇その他の助成金事業<山口県子育て応援ファンド>

(4) その他市民活動事業<定款事業①②>

○講師等派遣事業

市民活動・NPOに関わる講座・委員会等への役職員を派遣

■山口市市民活動支援センター「さぼらんて」■

1 運営方針

(1) 基本目標

個性豊かで活力のある自立した山口市に向けて、

1. 市民意識の啓発・参画の促進
2. NPOの活動基盤の強化・自立支援
3. 広くNPO・地域コミュニティ・企業・行政等のパートナーシップを図り協働によるまちづくりを推進

■令和2年度重点テーマ

市民活動団体からの相談対応、伴走支援を基本に以下を重点テーマとする。

○市民活動への参加のきっかけを提供

- ・大学生インターンシップによる市民活動団体のPR動画制作による情報発信。
- ・これまで実施した大学生を交えた円卓会議での意見を反映した、SNSを活用したマッチングのしくみづくり。
- ・誰にでも居場所と役割がある地域を目指して、多様な社会参加の入り口となる市民活動への参加情報の収集・発信。

○市民活動と地域コミュニティのつながりづくり

協働推進課と連携し、地域コミュニティのニーズを把握した上で、市民活動団体とのマッチングの推進やその他の地域支援への協力。

○市民活動団体へのマネジメント支援

- ・寄附など多様な財源確保に向けて、公共の担い手として社会的信頼の得られる事業計画づくりなどの伴走支援を行う。
- ・社会課題のテーマごとに行政との連携・協働に向けた円卓会議の実施。

(2) 運営上の工夫

□市民活動支援を通じて活力ある地域社会に貢献するための職務姿勢

- ① 「市民活動とは?」「市民の自主自立した運営の在り方」などの意義を伝える姿勢
- ② 市民団体の自主性を尊重し、共に考える寄り添う姿勢
- ③ 幅広いネットワークを生かし、団体同士や行政、地域、企業とつなぐ姿勢
- ④ 常に問題意識を持ち続け、自己研鑽を積む姿勢
- ⑤ 多様な価値観を受け入れ、誠実で対等なコミュニケーションを心がける姿勢

□職員配慮事項

- ① 入りやすい雰囲気づくり
- ② プライバシーの保護
- ③ リサイクルなど環境への配慮
- ④ 官設民営型センターであること

□よりよい活動支援に向けて

- ① 協働推進課との定期的な情報交換
- ② 定期的な職員ミーティング
- ③ 職員研修（内部・外部）
- ④ 事業開催時の参加者へのアンケート実施
- ⑤ 団体情報の整理・分類による現状把握と団体のニーズ把握
- ⑥ 多様な財源確保に向けて支援力の向上

2 仕様書に基づく事業分類

（1）施設管理業務

□運営方針

山口市中心商店街へ設置された拠点機能（ハード）を最大限活用し、市民活動団体への支援を中心に幅広い利用者を想定し対応。

市民が立ち寄り易い拠点になるようにレイアウトを検討する。

◇市民の自由な情報交差点

一般市民が自由に入館でき、情報収集などがしやすいようなレイアウト。

◇多様な市民活動を応援

会議・講座はもちろん、専用事務所を持たない市民活動団体の作業場としても、できる限り活動しやすい柔軟な対応。

◇官設民営型センターとして運営

中間支援者として社会的責任を自覚した上で、市民目線を大切に、常にニーズ把握をしながら支援。

□事業内容

- ① 開館日：水曜日及び祝日、年末年始（12/29～1/4）を除く毎日
但し、土日の祝日は開館する
- ② 開館時間：午前9時30分から午後6時まで
※開館時間外の利用希望への柔軟な対応
- ③ 会議室等の使用管理
- ④ コピー機、印刷機、紙折機等の備品の使用及び保守管理業務
- ⑤ 光熱水費及び通信費に係る支払
- ⑥ 施設備品の保守管理、軽微な修繕
- ⑦ センター案内パンフレット及び各種手続き書類の作成
- ⑧ センター利用者の統計資料作成及び市への定期報告

(2) 普及・啓発及び情報収集・提供業務

□運営方針

◇市民活動の意義をわかりやすく発信

社会から今なぜ市民の自主的活動が期待されているのかその意義を一般市民にもわかりやすく、身近に感じてもらえるように発信。

◇対象ごとの情報発信

NPO法人、任意団体、活動に興味のある市民、企業など対象ごとの発信。

◇ホームページ上の情報集積

興味や疑問にダイレクトに応えられるように、コンテンツを分類し、それぞれの入口を明確にして発信。また情報の更新を頻繁に行い、飽きのこないページづくり、わかりやすいページづくりを目指す。

□事業内容

①市民活動に関わる情報収集・整理

ア NPO法人情報コーナーの設置

イ 市内の市民活動全般情報

ウ 関係機関情報

エ 活動充実コーナー（助成金情報、市民活動お役立ち情報）

②市民活動の活性化を目的とした広報紙を発行

ア 広報紙

○「ええやん新聞」タブロイド判4P カラー 年2回発行

（配布先：市内各所、登録団体、関係団体、市内幼稚園・保育園、限定地域等 30,000部）

○「活動インフォメーション」（広く市民向け）A4両面手刷、毎月発行

（配布先：市内各所 偶数月1050部 奇数月660部）

○「助成金情報」A4両面手刷 隔月発行（登録団体、地域交流センター 600部）

○「年間事業計画」、「事業報告」、事業実施後の「かわら版」を発行

（登録団体、地域交流センター 750部）

③ホームページの効果的な運用

○基本コンテンツ：

・「市民活動とは?」「さぼらんての機能紹介」「市民活動行事予定」「まちサポ広場（市民団体電子図書館）」「講座レポート」「広報紙」「助成金」「お知らせ」「活動お役立ち情報」・山口市の地域づくり協議会との「リンク」等

○充実強化コンテンツ：

・「まちさぽ広場（団体情報）」活用促進と内容充実。

・「ボランティア募集」の充実

・「活動お役立ち情報」の充実

・企業に向けての情報提供

○ソーシャルメディアを活用した情報の拡散

さぼらんて情報のみならず、団体の情報も拡散

④拠点を活用した市民活動啓発

市民活動団体のミニポスターを作成し、来館者への参加のきっかけを発信

⑤その他の情報発信

○若い世代に向けた情報発信「インスタグラム」（浅く広くのビギナー向けボランティア情報）、「Line@」（継続的なボランティア情報）を活用した発信

○さぼろぐの更新（さぼらんでブログ）

市民活動の身近情報を発信

○事業開催時のプレスリリース

⑥多様な人材が気軽に集えるミニイベント開催

○登録団体等に声掛けし、交流会の開催

（3）相談業務

□運営方針

◇多岐にわたる相談への円滑な対応

相談内容の記録と整理により、支援ニーズを把握し、専門相談にも対応。

◇市民活動の意義を発信できる対応

自分たちが「したい活動」から「社会のニーズを踏まえた公益活動」「社会変革の推進力」として発信できるようにアドバイス。

□事業内容

①相談対応

ア 専門相談：NPO法人運営、組織運営に関する相談

イ 幅広い市民活動に関する相談：

助成金をはじめ、市民の巻き込みや情報発信、新規の活動に向けての相談

ウ 市民からの活動への参加や協力などに関する相談

②対応に向けての工夫

ア 相談ケースの検討

イ 相談記録・整理・共有

ウ 登録団体の支援ニーズの分類

※相談内容によっては、他の関係機関、団体等のマッチングを行う。

（4）人材発掘・養成業務

□運営方針

◇マネジメント力向上

これからの公共を担っていくために社会的信頼、寄付が得られる市民の組織づくりを支援。

◇関係構築力の向上

自分たちの活動を多くの人に知ってもらい、理解者を増やしたいと思っている団体のネットワークづくりや広報力を支援。

◇NPO法人の実態把握

NPO法人の事業実態や会計状態を把握し、多様な財源確保に向けての支援策を検討。

◇地域型の身近な活動の育成

地域づくり支援センターと連携した地域支援と人材育成の模索。

□事業内容

①NPO法人設立・運営の支援

- ア 法人設立運営、財源確保に関する相談、研修等の開催
- イ NPO法人の運営指標や情報発信指標に基づく寄り添う個別支援

②市民活動団体の段階ごとの活動を充実するための支援

- ア 市民への理解や支援を得るための「情報発信」「PR 動画制作」の支援や講座の開催
- イ 活動を始めたばかりの団体の活動充実に向けた支援
- ウ 市民活動団体のボランティア情報の発信支援

③市民団体勉強会への派遣

- ア 団体勉強会や課題整理への専門家派遣や他の派遣制度の活用
- イ 団体のミッションやビジョンの整理に向けての個別支援

④市民活動や運営に関する情報提供

よくある相談や質問等をHP等で発信

⑤社会課題解決に向けた地域型・テーマ型の円卓会議

多様な主体が連携した身近な地域活動の話し合い、実践の支援

⑥大学生のインターンシップの受け入れ

学生とNPOの円卓会議などを実施し、学生のインターンシッププログラムを充実させ、NPOや地域への学生ボランティアの巻き込みを促進

(5) 協働促進に関する業務

□運営方針

◇協働の土壌づくり

協働は手間と時間がかかることを前提に、まず、お互いを理解し合うこと、協働の意義を知ることによってパートナーシップが組める土壌づくりを目指す。

◇協働事業の実施

市民活動団体を中心として、大学や地域との連携・協働事業の企画・実施。

□事業内容

- ①市民まちづくり講演会への運営協力
- ②社会課題解決に向けた地域型・テーマ型の円卓会議（再掲）
- ③地域づくり協議会等へのヒアリング同行
- ④担当課との定期的情報交換会

(6) 事務局支援業務

□運営方針

◇拠点を持たない団体の事務局機能を支援

専属の職員や拠点を持たない団体の活動がしやすいように支援。

□事業内容

- ①登録市民団体へのサービス提供

- ア 場等の利用による支援
 - a 拠点利用（会議室利用、印刷機、紙折り機、団体BOXなどの利用）
 - b 機材利用（プロジェクター、スクリーン、マイクアンプなど）
 - c 持ち込みイベント利用
- イ 連絡取次機能による支援
 - a 連絡取次窓口利用
 - b 講座やイベントの申込などの連絡取次窓口の対応
- ウ 広報支援
 - a さぼらんで発送作業における同封サービス
 - b マスコミ等への広報活動への助言
 - c まちサポ広場（市民活動団体電子図書館）の利用
 - d ホームページ等への情報掲載

（7）ネットワーク

□運営方針

- ◇多様な団体の主体性、特性を生かしたネットワークづくり
- ◇企業等異業種との連携の模索
- ◇地域づくり協議会や社会福祉協議会などの中間支援組織との連携模索

□事業内容

- ①登録 NPO 法人連携・情報共有
- ②社会課題解決に向けた地域型・テーマ型円卓会議（再掲）
- ③夏祭りにおける団体同士の連携によるイベント開催をコーディネート
- ④市民団体へのボランティアコーディネート
- ⑤企業と市民活動の連携推進（寄付付き商品「支え人。」プロボノ、ファンドレイジング等）
- ⑥地域づくり支援センター職員と地域づくり協議会等へのヒアリング同行し、市民活動団体との連携の模索

（8）運営基盤強化

□運営方針

- ◇情報開示などの支援を通して、市民活動団体との双方向の関係作り
- ◇中間支援者の育成
NPO法改正、新会計基準を浸透させ、新しい公共を支えるNPO育成に向けて、中間支援者として課題解決にむけて論理的に整理する力をつける

□事業内容

- ①市民団体の分類・活用
テーマや規模など多様な団体が、地域へどのような貢献ができるかを整理し、団体のニーズごとの支援策や市民活動団体の地域社会とのマッチングを検討。
- ②機能充実に向けての専門家等との連携（多様な分野の専門家の巻き込み）
- ③組織内部の支援内容の共有システムづくり
KINTONE を用いた支援内容や専門性の共有のシステムづくりなど、多機能に対応できる体制づくり
- ④山口市のNPO法人の実態把握
- ⑤職員指標に基づくスキルを身につけるための各種セミナーへの参加

■ ほっとさろん中市「まちのえき」事業計画 ■

1 運営方針

(1) 目的

高齢者が毎日をワクワク楽しめ、人や社会とのつながりを感じ、また生きがいを感じながら、充実した生活が送れるサポート体制づくり

(2) 位置付け

山口市中心市街地で、「ひと」と「ひと」を、「ひと」と「まち」をつなぐ市民交流拠点として、「まちのえき」を位置付けます。

(3) 運営理念

- ◇すべての方に「ほっ」として帰っていただけるように。
- ◇「まちのえき」を目指して外に出てきていただけるように。
- ◇毎日ワクワクできるような工夫を心がけながら。

(4) 目指す機能

<基本機能>

- ①休憩機能…まちなかで「ほっ」と一息つける場を提供します。
- ②交流機能…人と人とが出会い、交流を深める場と機会を提供します。
- ③相談機能…生活や健康に関する相談を受け、アドバイスをを行います。
- ④情報機能…福祉の情報や商店街の情報など、高齢者を対象にした情報発信を行います。

<付加機能>

- ⑤移動支援機能…まちなかにおける移動支援を行います。

(5) 目標

情報機能と交流機能を総合的に活かしながら、来所者同士の交流が促進されるようなしくみづくりを行う。

(6) 行動指針

- ◇いつも笑顔で元気よく挨拶をします。
- ◇1つ1つ心を込めて行動します。
- ◇まず、受け入れることから始めます。
- ◇目の前の方の話を真剣に聴きます。
- ◇振り返りを大切にし、それを次に活かします。

2 事業

主要テーマ：情報発信の強化

(1) 施設管理・運営

高齢者から子どもまで、障がいの有無に関係なく、誰もが気軽に交流できるサロンを商店街に設置し、管理・運営を行います。

- 開館時間 10:00～16:00
- 閉館日 水曜日・日曜日・祝日・盆・年末年始
- 施設及び備品類の管理、利用状況統計

(2) 休憩・交流

「ほっ」と一息つける雰囲気を提供を心がけ、利用される方同士の交流の場や機会を提供します。

- お茶の提供
- 会話のきっかけとなるしかけを考える

(3) 健康相談（まちの保健室）

健康相談や健康チェック（血圧測定、体脂肪測定など）を看護師又は保健師が行います。

- 日 時 「まちのえき」開館日（ただし、第2土曜日は閉室）
10:00～16:00（12:00～13:00は昼休み）
- 対応方法等を共有するための連絡会議（年4回）

(4) 情報

- ①「まちのえき」リーフレットの発行
- ②ウェブサイトの管理・運営
- ③店頭及び館内での情報コーナー設置
- ④情報誌の発行・発送
- ⑤ツイッターでの発信

(5) 移動機器の貸出（タウンモビリティ）

中心市街地内での移動が苦にならないように、負担を軽減する移動機器（車いすやシルバーカー等）を貸し出します。

■こども明日花プロジェクト事業計画■

1 運営方針

ビジョン：どんな環境に生まれ育っても、子どもが明日（あす）に希望を持てる社会を実現する。

ミッション：①子どもたちが安心して過ごせる居場所と学びの機会を提供する。
②身近な大人が子どもたちを見守り、受け止める地域をつくる。

2 事業

山口市の子どもたちの生活・学習支援事業を中心に委託事業2件、助成事業5件（その他申請中の助成事業3件）で実施。各委託・助成事業にはそれぞれ寄付も充当予定。不足分の事業費9,000,000万円を目標に寄付募集を行う。

1 受託：山口市子どもたちの生活・学習支援事業（居場所づくり）業務 <4年目>

(1) 無料学習会 市内5ヶ所で週1回実施（委託料4,399,580円）

①湯田（昨年、白石から変更）、②平川、③小郡、④大内、⑤宮野

②施設派遣（単独事業） 吉敷愛児園 ボランティア派遣

(2) 居場所づくり 湯田地域で週1回実施

2 受託：山口県子ども食堂サポート事業 <2年目>（委託料4,829,957円）

(1) 子ども食堂開設・運営相談（統括コーディネーター1名、地区推進コーディネーター4名）

(2) 子ども食堂推進会議の開催（年3回以上）

(3) 開設セミナーの開催（東部・中部・西部・北部 各1回以上）

(4) 山口県子ども食堂登録制度の普及

(5) 子ども食堂理解促進 社協、企業、団体への理解促進

(6) 子ども食堂マップ更新

3 助成：社会福祉振興助成事業（WAM助成金4,200,000円）

(1) 教育・福祉連携セミナー<兼ボランティア研修会> 年3回開催

講師（県外1回、県内2回）7月・9月・11月（予定）

(2) ひとり親意見交換会 年6回開催（2ヶ月おき）

(3) あすはなカレッジ（若き担い手養成研修）

(4) こども応援ミーティング（県立大共催）

(5) こども食堂（山口市内3か所、毎月1回）

(6) トワイライト事業（なのはなハウス、月2回実施）

(7) 小郡中「学校朝ごはんプロジェクト」

(8) プロボノチーム・資金調達（県内出張費、募金箱購入等）

(9) 広報・通信

(10) ホームページ維持管理

(11) チラシ、パンフレット、活動報告書

(12) 研修費用 ファンドレイジング大会参加

4 助成：食を通じた居場所づくり（キューピ-みらいたまご財団 700,000 円）

- (1) 教育委員会との事前調整
- (2) PTA 説明会
- (3) 学校朝ごはん 週1回（大内小・大内南小・宮野中）
- (4) 夏休み昼ご飯提供&地域居場所 5回
- (5) 普及のためのシンポジウム（山口市、宇部市、下関市）

5 新型コロナ対策緊急支援

- (1) 県こども子育て応援ファンド（100,000 円）
なのはなクラブ（おむすび配食）、小郡中朝ごはん（昼食パン配布）
- (2) 「みんなにエール！弁当」プロジェクト（750,000 円 寄付予定）
ひとり親世帯への支援 5月10日（日）から7月12日（日）まで毎週日曜、150食配布
- (3) ゴールドマン・サックス緊急子ども支援基金（2,000,000 円）
県内を対象に、ひとり親世帯の実態把握と「宅食」「昼食提供」当による支援
アンケートにより実態把握し、ひとり親支援ポータルサイト開設へ
- (4) 全国こども食堂支援センターむすびえ 緊急支援プロジェクト助成（500,000 円）
小郡地区を対象に SSW（ソーシャル・スクール・ワーカー）と連携し、支援家庭の実態把握を行い、「テイクアウト」や「デリバリーサービス」を組み合わせる。併せて、継続的な連絡会議を立ち上げる。

6 その他助成金申請予定

- (1) READYFOR：新型コロナ対策緊急支援第2次 大学生等を対象にした交付型給付金
- (2) 河村財団申請中：子どもと子どもの権利セミナー、こどもSDGsセミナー